

事例 1 林地保全に配慮した森林施業の推進

(九州森林管理局 宮崎森林管理署都城支署)



- 熊本県熊本市(くまもとし)
- 講演会の様子



- 宮崎県小林市(こばやしし)
- 奈佐木(なさき)国有林
- 現地検討の様子

国有林野事業では、近年の気候変動の影響による豪雨の増加等に伴い、山地災害が激甚化していることを踏まえ、令和3年度末に作成した「国有林における林地保全に配慮した施業の手引き」*に基づき林地保全に配慮した森林施業を進めることとしています。

九州森林管理局では、令和4年11月に、林地保全に配慮した森林施業の考え方の定着に向けて、国立研究開発法人森林研究・整備機構森林総合研究所関西支所から講師を招いて講演会を開催し、監督業務を担う職員等に対して森林施業に伴う山地災害リスクの評価手法や対応方法について解説して頂くとともに、意見交換を実施しました。

また、宮崎森林管理署都城支署では、当該講演会の内容をより広く共有するため、令和5年1月に署の職員や林業事業者を対象に現地検討会を開催し、車両系による搬出が可能か、集材路を作設する場合に避けるべき危険地形はないか等について意見交換を行いました。

* 国有林野事業における災害リスクの軽減に資するよう、森林施業に伴う山地災害リスクの評価手法や対応の考え方等を掲載した手引き。



https://www.rinya.maff.go.jp/j/kokuyu_rinya/attach/pdf/seibi-17.pdf